

社外の知と共創する意義 ～共創プラットフォーム Wemake の事例～

株式会社 A 代表取締役
大川 浩基



目 次

概要	1
はじめに	1
1. Wemake とは.....	2
(1) Wemake の沿革	2
(2) Wemake の現在	2
(3) Wemake の仕組み	3
(4) Wemake コミュニティの参加ユーザー.....	3
(5) 4 つの提供価値.....	4
(6) 期待できる効果.....	4
(7) 公開／招待制プロジェクトの比較.....	4
2. Wemake が求められる理由	5
(1) 新規事業におけるオープンイノベーションの必要性	5
(2) オープンイノベーションの種類	5
(3) 新規事業における外部サービス	5
(4) 課題と Wemake のソリューション	6
(5) 高いプロジェクト成功率を担保する、Wemake スタッフによる支援	7
3. 新規事業での重要な要素	7
(1) 重要課題／欲求の発見	7
(2) 仮説検証／改善の能力	7
(3) 熱量による推進力	8
(4) 意思決定能力	8
おわりに	8

概要

Wemake は、企業主催のプロジェクトに対し、Wemake に登録している参加ユーザー（個人／法人のどちらでも）がアイデアを提案することができるオンライン共創プラットフォームだ。自社では思いつかないアイデアを広く求め、企業がプロジェクトを主催している。本講演では、Wemake を提供する株式会社 A 代表取締役の大川氏を講師に招き、120 社以上の大手企業との共創に取り組んできた Wemake についての紹介、および Wemake が企業に求められる理由を紹介する。さらに、オープンイノベーションの必要性が高まりつつある中、既存事業とは異なる人材／技術／ノウハウが必要となる新規事業において重要な要素について、これまで多くの新商品／新規事業の開発に携わった経験から得た知見として情報共有する。

はじめに

まずは自己紹介をする。東京理科大学工学部を卒業後、早稲田大学大学院ファイナンス研究科にて金融工学を専攻中、祖師ヶ谷大蔵に戸建てを借りてモノづくりの場を創った。ここでは 3D プリンタやレーザーカッターなどのデジタルファブリケーション（デジタルデータを基にモノを作る技術）の中古品を集めて場所を開放し、個人でモノづくりできる場を提供していた。このサービスは終了したが、モノづくりのスキルはないが課題に詳しい人、スキルはあるが新しいモノづくりに挑戦したい人などの存在に気づききっかけとなった。人が集まることの可能性と、オンライン化することにより組織／企業にとらわれずに有意義な商品／事業を創出できる可能性を見出し、場所を WEB 上に変えてモノづくりの場を提供しようと、投資家／助成金などから資金を得ながら 2013 年に株式会社 A として Wemake サービス β 版を開始した。現在は大手企業を中心に、新商品／新事業の共創プロジェクトをサービスとして提供している。

本講演では、Wemake の仕組み／Wemake が企業に求められる理由に加え、新規事業における重要な要素について、これまで多くの新商品／新規事業の開発に携わった経験から得た知見として紹介する。

1. Wemake とは

社外との共創で、革新的なビジネスを創出している Wemake は、企画創出から事業仮説の検証までワンストップで支援するオンラインプラットフォームである。ここでは、Wemake の成り立ちから現在の仕組みなどに至るまで、Wemake の概要を紹介する。

(1) Wemake の沿革

祖師谷大蔵に、Wemake の前身となるサービスとして、共創によりものづくりを行うオープンな場を創った。2010 年台当時、モノのインターネット化（ソフトウェアとハードウェアの民主化が合わさることで発生すると予測）が進み、何か面白いことができるのではないかと考えたことがきっかけだ。

2013 年にサービスをオンライン化し、個人の提案ができるプラットフォームとして Wemake サービス β 版を開始した。困っていることなどを起点とした発案に共感した人が集まってモノづくりに取組むような仕組みだ。ユーザー起点の提案／アイデア提案から販売まで支援、ユーザーはさまざまな活動が可能、報酬は収益からのロイヤリティ分配、などの特徴を有する自由度の高いサービスであった。しかし企業の方向性／タイミングに合わない、どのような人による提案なのかがわからない、などの理由から、企業にアイデアが採用（買取）されず商品化に至らない課題があり、2014 年にサービスを終了している。

2015 年からは大手企業との商品開発プラットフォームとして、サービスを一新している。大手企業とユーザーコミュニティによる商品開発サービスとなっており、主催企業の設定する商品開発テーマに沿ってアイデアを共創することに特化した。企業起点（大手企業）、アイデア企画に特化、採択（買取）されると賞金が付与される、などの特徴を有する。新事業開発も支援している。このサービスは現在も継続提供している。

2017 年からは町工場との商品開発プラットフォームとして、新サービス Wemake lab（非公開）を開始した。町工場とユーザーコミュニティによる商品開発サービスとなっており、町工場の持つ素材／技術からアイデアを企画し、クラウドファンディングにて商品化した。企業起点（町工場）、アイデア提案から販売まで支援、クラウドファンディングの活用、報酬は収益からのロイヤリティ分配、などの特徴を有する。こちらのサービスは現在終了しているが、課題を解決して将来再開できればと考えている。

(2) Wemake の現在

現在は、新規ビジネスを生み出すことができるオープンイノベーション実践プラットフォームとして、大手企業との商品／新規事業開発プラットフォーム（2015 年～）のサービスを展開している。

企画を求める企業と、多様な発想やスキルを持つ個人をつなぎ、これまでにない新商品や